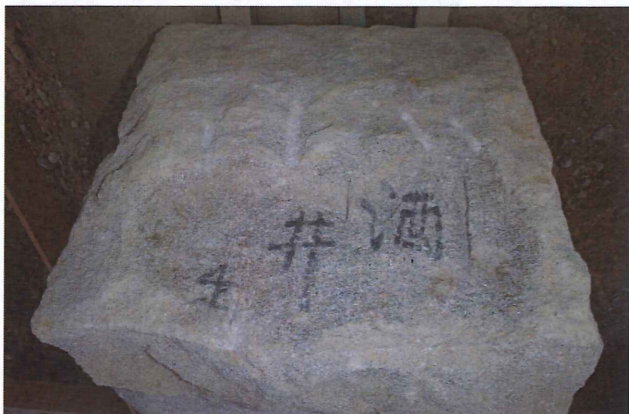




柱穴2礎石



柱穴5礎石



柱穴7礎石

● 礎石に記載された墨書

「小笠郡」・「應□(聲カ) 教院」などが確認されているが、今後の分析・検討が必要である。



基礎地業 (東半)



基礎地業 (西半)

● 調査成果

今回の調査では、山門移設前の建物（前身建物）と大正時代に移設された山門の基礎地業が良好に確認できました。

前身建物は掘込地業・版築を伴っているだけでなく大規模な建物となることから、寺院の主要な建物であったと推定できます。

したがって、この強固な基礎の上に山門は移築されたと判断できます。また、壺地業も丁寧に行うなど場所・地形・地質にあわせて数多くの基礎地業工法が採用されていたことが判明しました。

今後は3次元計測の解析をすすめて詳細を明らかにしていくとともに、成果の公開を進めていきます。

【引用・参考文献】

海野 聡 2017 『古建築を復元する』吉川弘文館

奈良文化財研究所 2003 『古代の官衙遺跡 Ⅰ遺構編』

文化庁 2013 『発掘調査のてびき 各種遺跡調査編』

修理現場から

文化力

POWER OF CULTURE

発掘現場から

文化力

POWER OF CULTURE

【問い合わせ先】

菊川市教育委員会社会教育課

〒437-1514 静岡県菊川市下平川618-1

TEL 0537-73-1137

FAX 0537-73-1138

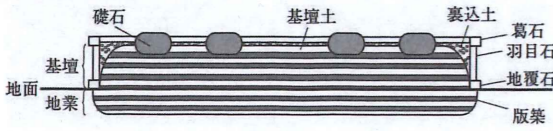


菊川市HP

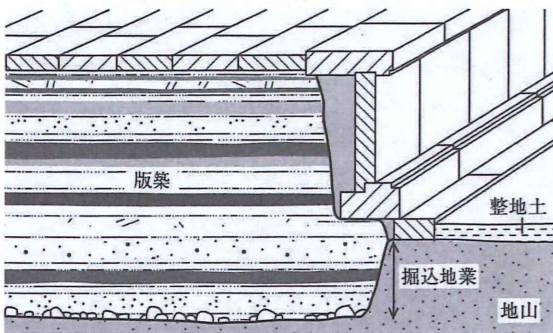


公式X(旧Twitter)

● 用語の解説



基壇版築・模式図 (海野 2017)



掘込地業と基壇 (文化庁 2013)



山門 根石 (礎石下を安定させ、高さを調整する石群) 検出 3D 計測画像 (北側より)

● 礎石下の基礎地業



壺地業 (柱穴3)



壺地業 (柱穴1: 手前、前身建物)

山門・前身建物ともに壺地業を行っている。壺地業とは、礎石の下方を壺掘りして、内部を土・礫で埋め固める工法。山門の壺事業は礫と土を交互に搗き固めており、より丁寧な工法である。

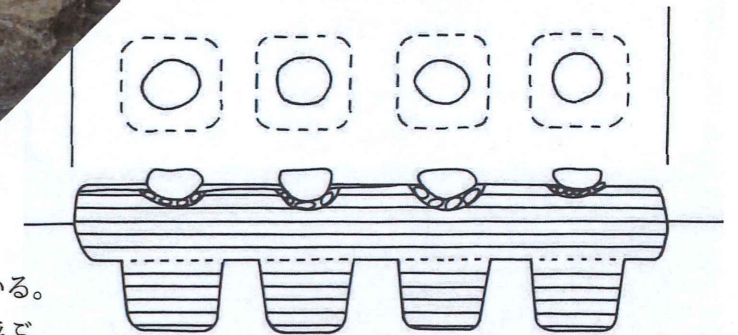
● 前身建物の版築



版築 (前身建物)

基礎となる部分をいったん掘り下げ、その内部を搗き固めながら埋め戻す地盤改良が行われている。土を搗き固める際、性質の異なる土を薄く互層に搗き固めて盛り上げていく工法を「版築」と呼ぶ。

山門・前身建物では、建物の基礎地業 (掘込地業) にさまざまな工法が採用されている。規模の大小はあるが、両建物とも概ね下図の工法が採用されたものと推定される。



基礎地業工法 模式図 (奈文研 2003)